

新潟焼山の火山活動解説資料（令和2年4月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・表面現象の状況（図1～2、図4、図5 - 、図6～7）

新潟県消防防災航空隊の協力により17日に実施した上空からの観測では、前回（2019年4月）の観測同様、弱い噴気や高温領域が認められましたが、一部の噴気孔で、前回の観測で認められていた噴気や高温領域が認められませんでした。

噴煙活動は低下した状態で経過しています。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上50m以下で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図5 - 、図8～9）

火山性地震、火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図5 - ）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年5月分）は令和2年6月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

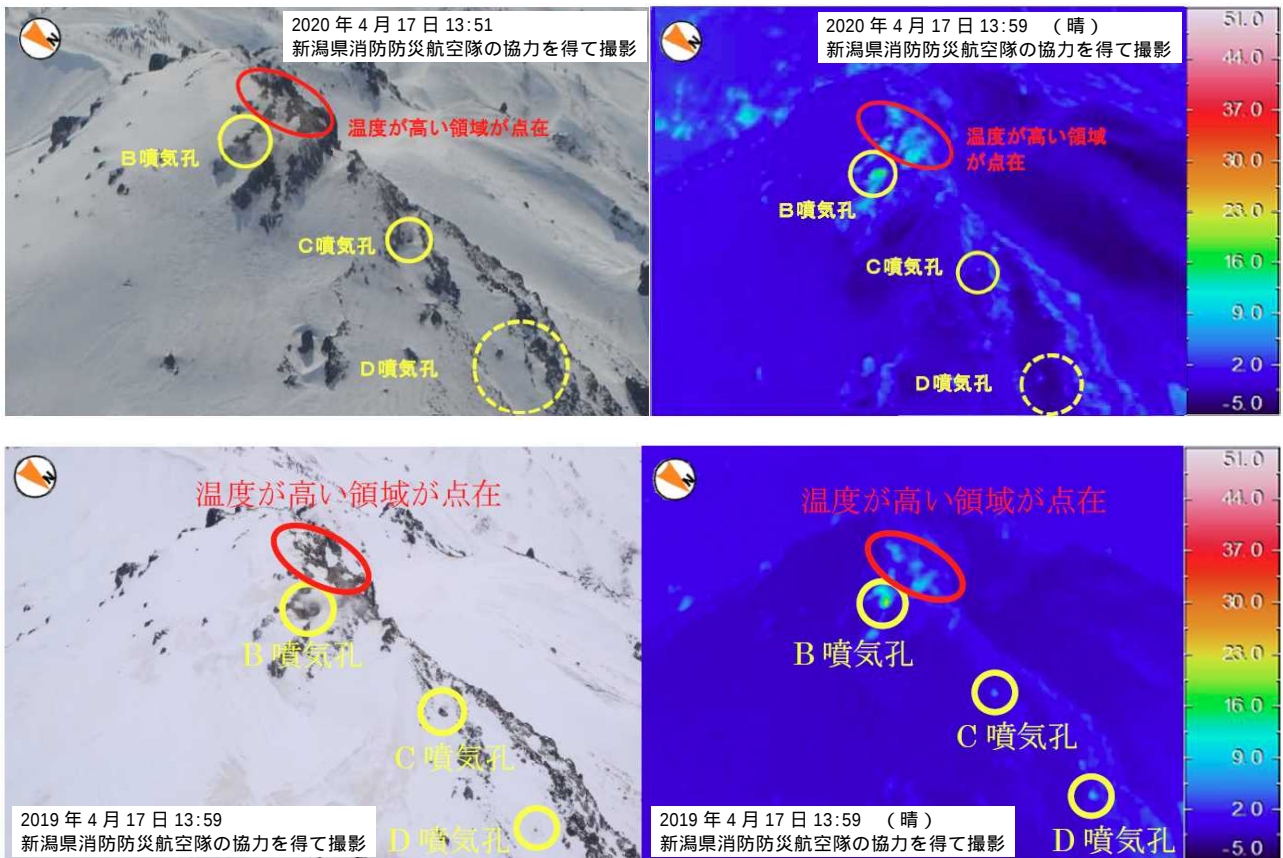


図1 新潟焼山 山頂部北東斜面の可視画像及び熱赤外映像装置による熱画像

・噴煙量は少なく、B噴気孔から高さ10～20m程度まで噴気が上がっていました。前回の観測で噴気が確認されていたC噴気孔を含め、他の場所では噴気は認められませんでした。熱映像装置による観測では、B噴気孔付近で引き続き高温領域が認められましたが、前回の観測で高温領域が認められていたC噴気孔やD噴気孔では高温領域が認められませんでした。

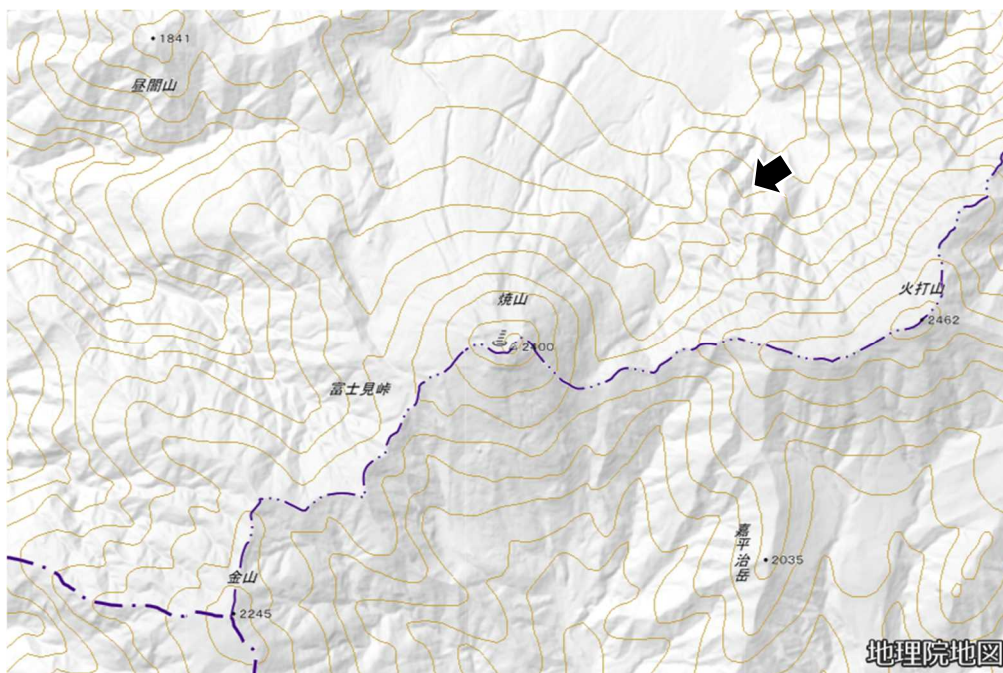
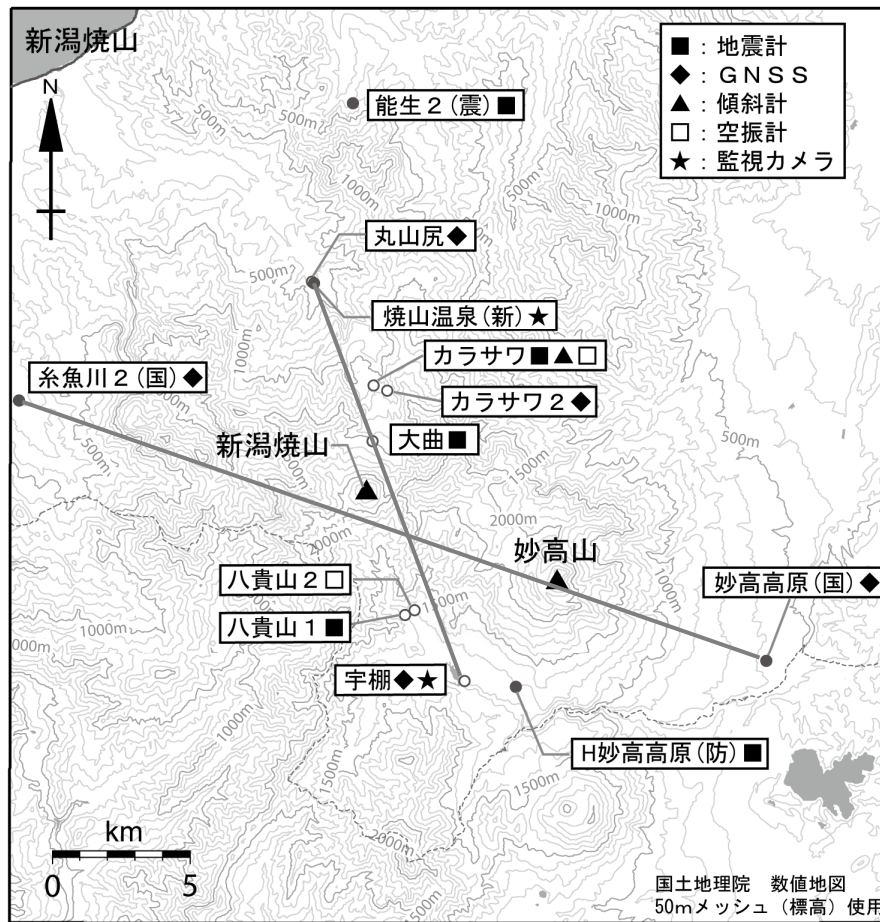


図2 新潟焼山 図1の撮影位置と撮影方向



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所、(新) : 新潟県

図3 新潟焼山 観測点配置図

(GNSS 基線 は図5の に対応しています)



図4 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況

(左: 焼山温泉監視カメラ (4月12日) 右: 宇棚監視カメラ (4月28日) による)

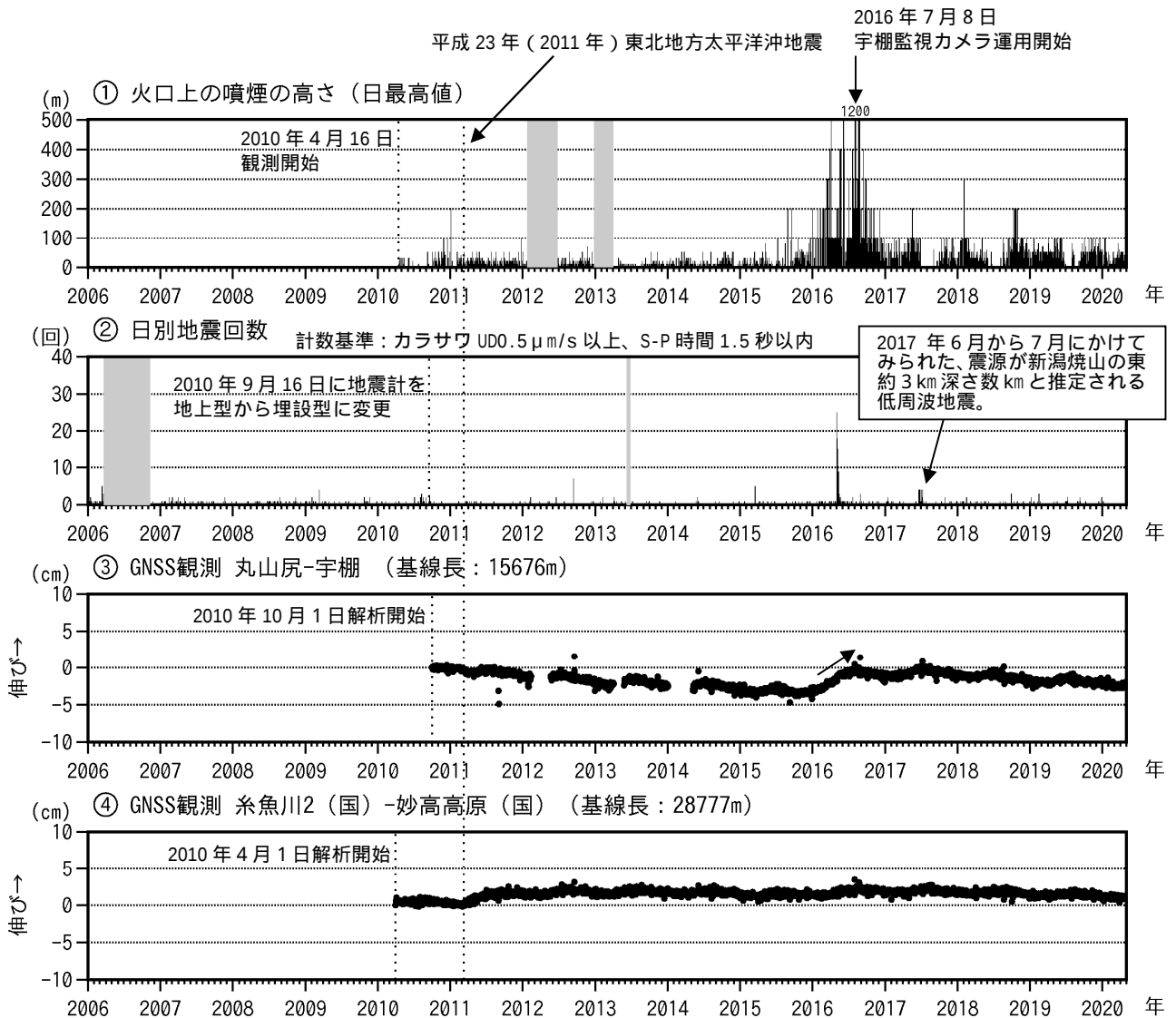


図5 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2020年4月30日）

（国）：国土地理院

灰色部分は機器障害による欠測を示します。

図3の に対応しています。空白部分は欠測を示します。

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上50m以下で経過しました。
夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。
- ・の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられました。
- ・今期間、火山活動によるとみられる変動は認められません。

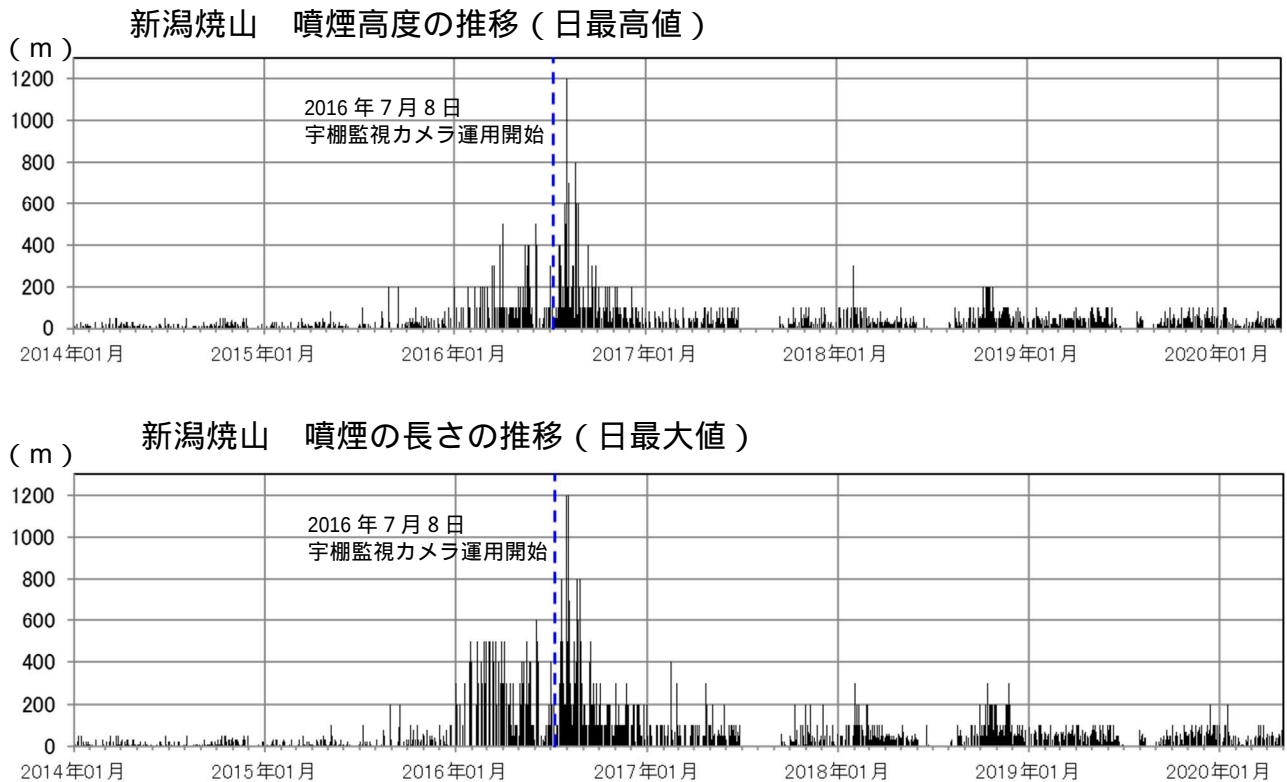


図6 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

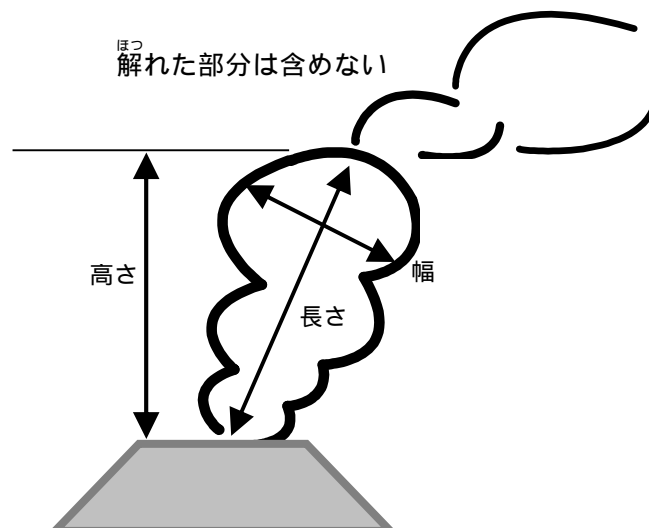
（それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2020年4月30日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図7参照）のグラフも示しています。

2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図3を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・2017年7月から8月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・2015年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015年12月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、気象条件により噴煙が高く上がる日はあるものの、2016年秋から噴煙高度は低下した状態で経過しています。

図7 噴煙の長さ、幅、高さの概念図



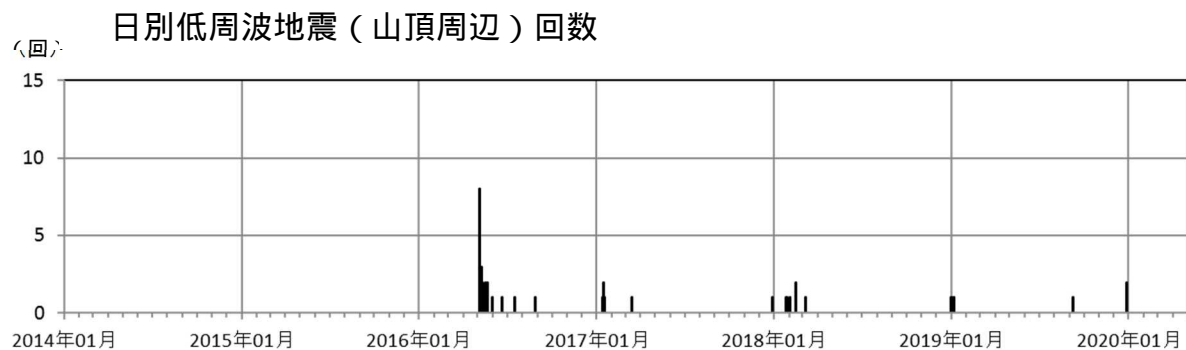
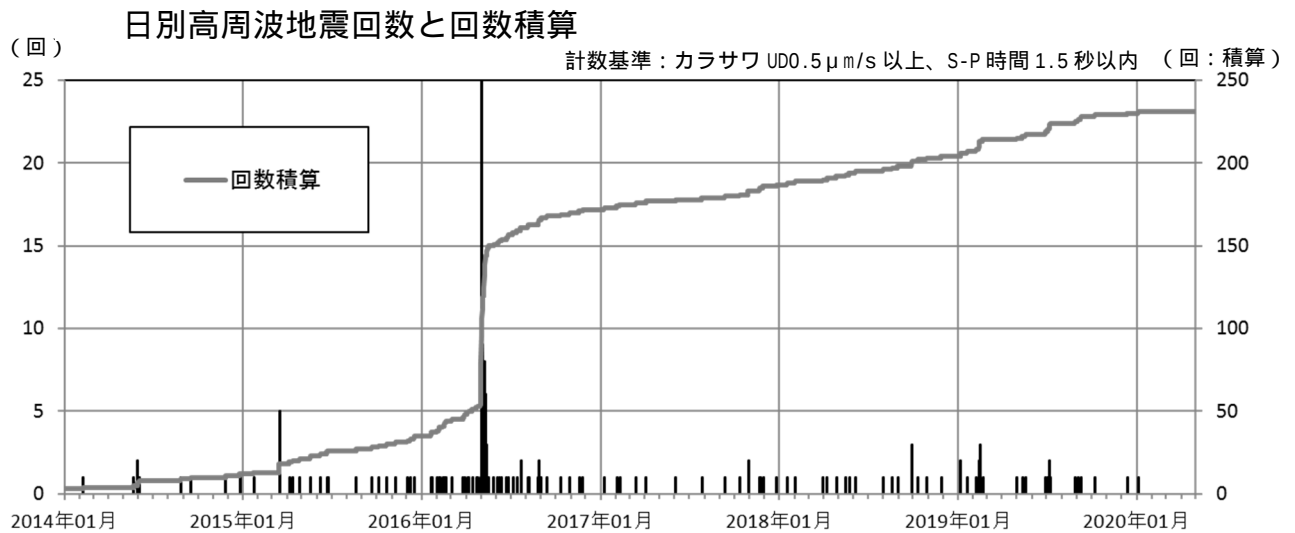


図8 新潟焼山 日別地震回数（2014年1月1日～2020年4月30日）

地震の主な種類（図9参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・2016年5月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月に減少し、それ以降火山性地震は少ない状態で経過しています。

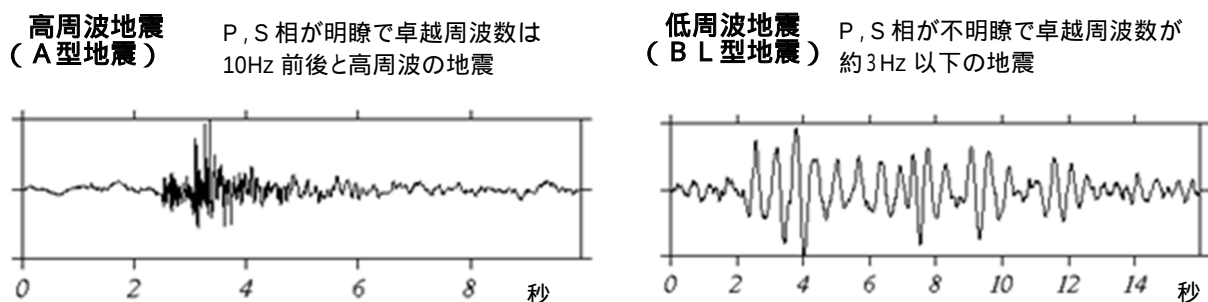


図9 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例